

第2学年 音楽科 学習指導案

日 時 令和元年10月1日(火) 5校時
学 級 2年A組 (22名)
場 所 音楽室
授業者 教諭 久保田 一恵

1 題材名 みんなで創る混声合唱

～歌詞の内容や曲想、声部の役割や全体の響きを生かして表現を工夫しよう～

2 題材について

(1) 題材観

本題材は、「言葉にすれば」(安岡優作詞 松下耕作曲)を教材とし、歌唱表現の工夫をしながら、混声合唱の響き、楽しさを味わう題材である。

学習指導要領に示された指導事項のうち第2学年及び第3学年の内容 A 表現(1)ア「歌唱表現に関わる知識や技能を得たり、生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫すること」、イ「次の(ア)及び(イ)について理解すること」、(ア)「曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わり」ウ「次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること」(ア)「創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、体の使い方などの技能」、(イ)「創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能」、共通事項に係わる主な音楽を形作っている要素のうち、「音色、旋律、リズム、テクスチャ、強弱」について指導を行うものとする。

小学校から中学校1学年での表現活動では、それぞれの音楽を形づくっている要素や歌詞の内容と曲想との関わり合いに気づきながら、曲想やその変化を感じ取って、音楽を想像豊かに聴いたり、思いや意図を持って表現の仕方を工夫したりする学習を系統的に行ってきた。2年生では歌詞の内容や曲想をじっくりと味わい、思いや意図をもって曲にふさわしい表現を工夫していく過程を大切に、思いや意図の質を高めたい。更にそれぞれの声部の役割や全体の響きとの関わりを理解し、主体的に歌ったりすることで、合唱の響きの豊かさを味わわせることにつなげたい。

(2) 生徒観

1学期の学習で、「語り合おう」では声部の役割を生かすこと、旋律の重なり方を意識してあわせて歌う学習を、「浜辺の歌」では拍子や速度が生み出す雰囲気、歌詞の内容と強弱の変化との関係やフレーズのまとまりを意識して音楽表現を工夫する学習をしてきた。

1学期末に行った授業評価アンケート結果は (A B C Dの4段階評価の A : はい)

授業の内容がわかり、できるようになったか A段階 82%

授業への取り組みや学習態度は良かったか A段階 95%

多くの生徒が授業に前向きで、特にも文化祭前のこの時期は合唱に対する意欲が高く、授業にも積極的に臨む姿勢が見られる。

本題材の学習では、音楽表現の工夫に重点をおいた合唱の学習を行い、歌詞の内容とかかわらせながら主体的に考え、曲にふさわしい表現を探る活動を通して、生徒の表現の意欲や技能を高めさせたい。

(3) 指導観

指導にあたっては、歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌うことをねらいとする。歌詞の内容を把握させ、曲のイメージをつかんでいくために国語科で学んできた「イメージマップ」を活用し、感じたことを言葉にしてイメージを交流しあう。

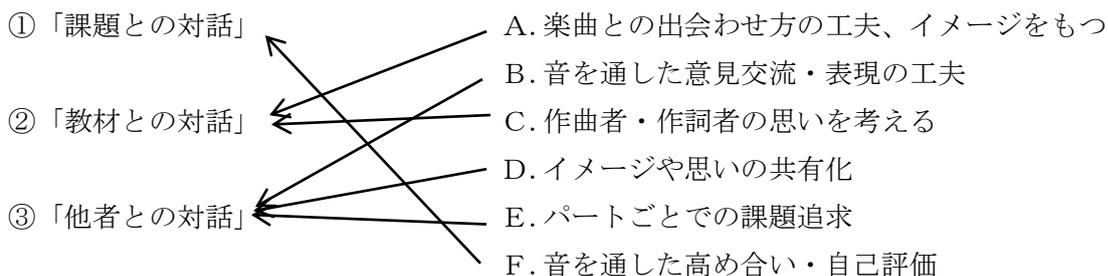
また、声部の役割を理解し、曲にふさわしい表現を歌詞の内容とかかわらせながら工夫させる。様々な方向から改善点を見つけさせ、より思いの高まりを感じさせる合唱にしていくために、ペア・パート・男女別等様々な形態で交流する場を設定しながら「対話」させ、すすめていきたい。

3 本校の研究との関連

共に学び、共に育ち合う子供の育成 ～「対話」を重視した授業づくりを通して～

本校の研究における「対話」

音楽科の学習



音楽科では、音楽的な見方・考え方を働かせ、他者と協働しながら「見えない音をとらえるためのイメージづくり、表現の工夫」をさせていきたい。歌詞や曲想から感じられるイメージを、音楽を形づくっている諸要素に関わらせて気づかせ、他と音に対する思いや解釈を共有させ、よりよい表現へとつなげていく。

「三つの対話」を通して、演奏の仕方を工夫したり、より豊かに音を感じ、楽しめるような聴き方ができるようにしたい。教材と共通事項との関わりに着目している意見を取り上げたり違う考えの視点を与えたりすることで、深い学びにつなげたい。

4 題材の指導計画

(1) 題材の目標

- ① 「言葉にすれば」の歌詞の内容や曲想を味わい、音色、旋律、リズム、テクスチュア、強弱に関心を持ち、声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して、楽曲にふさわしい表現を工夫して合唱する学習に意欲的に取り組む。【関心・意欲・態度】
- ② 「言葉にすれば」の音色、旋律、リズム、テクスチュア、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌詞の内容や曲想、声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。【音楽表現の創意工夫】
- ③ 創意工夫を生かした音楽表現をするために、必要な発声・発音などの技能を身に付けて歌う。

【音楽表現の技能】

(2) 題材の評価規準

観点1 音楽への関心・意欲・態度	観点2 音楽表現の創意工夫	観点3 音楽表現の技能
<p>①歌詞の内容（歌詞の言葉の意味、歌詞が表す情景や心情）や曲想に関心を持ち、曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>②声部の役割と全体の響きとの関わりに関心を持ち、音楽表現を工夫しながら歌う学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>①音楽を形づくっている音色、旋律、リズム、テクスチュア、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌詞の内容や曲想を味わい、声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して、音楽表現を工夫し、どのように合わせて歌うかについて思いや意図を持っている。</p>	<p>①知覚・感受しながら、声部の役割と全体の響きとの関わり、歌詞の内容や曲想を生かした、曲にふさわしい音楽表現をするために必要な技能（発声、言葉の発音、呼吸法、読譜の仕方など）を身に付けて歌っている。</p>

(3) 課題解決的な題材構想

題材名 みんなで創る混声合唱

～歌詞の内容や曲想、声部の役割や全体の響を生かして表現を工夫しよう～

〈題材を通して身に付けさせたい力〉

- ・ 三つの対話を通して主体的・協働的に課題に向かう力
- ・ 歌詞の内容や曲想を味わいながら、音色、旋律、リズム、強弱、テクスチャを知覚し、それらの働きによる特徴や雰囲気を感じ、音色や強弱、歌い方などを工夫して表現することができる力。



5 歌詞の内容や曲想を味わい表現を工夫する (5 / 5)

思いが伝わる合唱を創ろう

- ・ 歌詞に込められた思いが、聞き手に伝わるように、語感・リズム・強弱を生かした表現を工夫する
- ・ 歌詞の内容や曲想の変化を感じながら工夫して合唱する



4 声部の役割や音の重なりに思いをのせて表現する (本時 4 / 5)

音の重なり方と強弱の変化から、思いが伝わるように表現を工夫しよう

- ・ ヴォカリーズに込められた思いを感じる。
- ・ 響きの変化と各声部の役割を理解する。
- ・ 響きと歌詞のイメージを関連させ、表現方法を工夫する。



3 歌詞の内容や曲想を味わう (3 / 5)

歌詞のイメージを広げよう

- ・ 発声の仕方に気をつけて、パートの音を正確に歌う。
- ・ リズム、旋律の動きをとらえながら歌う。
- ・ 歌詞の内容をとらえるため、イメージマップに取り組む。



2 各声部の特徴をつかむ (2 / 5)

リズムを感じて歌おう

- ・ 歌詞や曲想に関心を持って、音色に気をつけてパートの音を正確に歌う。
- ・ 曲想の変化、リズムを感じながら歌う。



1 曲との出会い (1 / 5)

曲の雰囲気を感じ取ろう

- ・ 旋律・リズム・テクスチャ・強弱を知覚しそれらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら聴く
- ・ 曲の背景を知る
- ・ 各声部の旋律を覚える。



【これまでに学習した関連題材】

- ・ 歌詞の内容や曲想を感じ取り、それらを生かした表現を工夫しよう
(1年) 青空へのぼろうよ 生命が羽ばたくとき

【小学校との関連】

- ・ 曲想の変化に気づいて表現の仕方を工夫しよう

5 本時の指導

(1) 本時の目標

ハーモニーや強弱の変化を生かして、歌詞に込められた思いが伝わるように、表現を工夫しながら合わせて歌う。

(2) 本時の指導観

ヴォカリーズの部分に着目し、同時に発音することによって生まれる重厚な響きや、強弱の変化による感情の高まりを感じ取り、声部の役割と全体の響きを理解して、表現を工夫しながら(教材・他者との対話)歌わせる。前時で学習した歌詞の内容をとらえるためのイメージマップを生かし、声の響きや和音の変化と関連させて考えさせながら(他者との対話)課題に迫りたい。

(3) 展開案

段階	学習内容	学習活動	*指導上の留意点 <>対話 <input type="checkbox"/> 評価
導入 10分	1. 既習曲の想起	1 曲との出会いの時に、ヴォカリーズの部分が印象的だったことを想起し、前時で学習した歌詞の内容についてのイメージをどのように生かしていったらいいかについて気づく。(ヴォカリーズの部分で合唱する。	<教材・課題との対話> *ヴォカリーズの何が印象的だったのかを考えさせ、学習の目標を持たせる。
	2. 学習課題の確認	2 学習課題の把握	
音の重なり方と強弱の変化から、思いが伝わるように表現を工夫しよう			
展 開	3. イメージの根拠と旋律の重なり方の把握	3・ピアノによる4声の響きを聴き、そのハーモニーに溶け込むイメージをもって自分の旋律をハミングで表現する。 ・4声部それぞれの旋律単独での演奏とそれらが合わさった4部合唱との違いをとらえる。	<教材・他者との対話> *気づきを共有させる。 *音の重なり方の効果によって、曲の印象がより豊かになるという実感が得られるようにする。 *音を通じた意見交換をする。音楽の見方考え方を大切にさせ、モデル演奏の違いに気づかせる。 <教材・他者との対話> *モデル演奏を参考に自分たちの表現方法を考えさせる。
	4. モデル演奏の比較聴取	4・合唱の具体的なイメージを持たせるために他校の演奏等のモデルを示す。 ・3つのモデル演奏を鑑賞し、音の重なり方と強弱の変化に、どのような違いがあるかをみつける。 ・歌詞の内容についてのイメージを生かすために、どの演奏を参考にするのかを話し合う。	
	5. 曲のイメージを生かした表現の工夫(声部の役割の理解)	4 曲にふさわしい表現を工夫する。 ・強弱・音色・音の重なり ・各パートの音が響きにどのように関わっているのかを理解する。	
35分	6. 全体合唱	6 ヴォカリーズの部分で歌い合わせる。 ・「技能面」「表現の工夫」の二面から課題を整理させる。 ・強弱、音色、音の重なりから、演奏を分析させる。	<div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">曲にふさわしい表現を工夫することができたか。</div> *工夫した音楽表現をするために必要な技能(発声・呼吸法)を個やパートに応じて指導する。 <div style="border: 1px solid red; padding: 5px;">発音・発声・呼吸に気をつけ、工夫を意識し歌うことができたか。</div>
	終末 5分	7. 振り返り	7 本時の授業を振り返る。 ・自分たちが伝えたい曲のイメージに合わせて、更に表現を工夫していくことを確認する。

(4) 板書計画

学習課題

音の重なりと強弱の変化から思いが伝わるように表現を工夫しよう

ヴォカリーズの部分の板書

イメージマップ